



ドラムテーブル アクティビティ カリキュラム ガイドライン

■中度～重度の発達障害、自閉症を持つ個人またはグループ向け

音楽教育 ・ セラピー ・ レクリエーション

ジョージ・トンプソン (George Thompson) 著
TERI, Inc ミュージック & パフォーマンスアート ディレクター

協力：テリー・ウィナー (Terri Wiener)
MT-BC 米国認定音楽療法士



© 2015 Remo, Inc.

ドラムテーブル アクティビティ カリキュラム ガイドライン

■中度～重度の発達障害、自閉症を持つ個人またはグループ向け

はじめに

このカリキュラムとガイドラインは、TERI, Inc. のミュージック&パフォーマンスアートディレクターであるジョージ・トンプソンと米国認定音楽療法士のテリー・ウィナーが、Remo社と協力して考案しました。中度から重度の発達障害、自閉症を持つ個人やグループを対象にし、コンフォートサウンドテクノロジー™（以下CST）を採用したドラムを用いて積極的な刺激効果をもたらす音楽教育と療法的アクティビティを提供するものです。

概要

基本理念

このカリキュラムの目的は、教師、両親、療法士、その他の関係者に、ビデオシリーズとレッスンプランで紹介されているアクティビティを効果的に実践していただくために、プリントして実際に使っていただけるガイドラインを提供することです。内容は、特に障害者に配慮したインクルーシブ教育、（認定音楽療法士による）音楽療法、楽しむためのレクリエーションとしての音楽活動参加に役立てるために考案しました。

このような集学的、包括的なアプローチは、ソーシャルスキル、音楽的・教育的な目標の達成、自己表現、行動変容、自信の向上に取り組む上で、非常に有効的な手法です。

ビデオ※は、家庭において家族で、また学校において教育者や直接介護にあたる方が、CSTドラムテーブル使用したアクティビティをはじめするためのガイドとなるよう、制作しました。音楽療法として本格的に実施する場合には、近隣の認定音楽療法士にご相談下さい。

※ビデオは下記サイトで無料で公開しています。

<http://www.thecomfortsound.com/guidelines--lesson-plans>

ビジョン

本ガイドラインや、レッスンプラン、教材ビデオをご利用いただくことによって、安全でサポートが得られている環境下において、対象者ひとりひとりが潜在的に持っている音楽性、ソーシャルスキル、能力が、それぞれの年齢・適性にみあったかたちで、最大限引き出す機会が与えられることを願っています。

カリキュラムの目的

ドラムテーブルアクティビティシリーズは、言語・非言語のさまざまな発達領域における発達のために利用いただけます。ビデオ教材および各レッスンは、連続して行わなくてもよい構成になっており、段階的に、音楽演奏を通じて、社会的・知的・身体的発達が得られるようになっていきます。

本カリキュラムガイドラインは、効果的な手法・ガイドライン・情報※を提供し、各レッスンがよりよく実施できるようにすることを目的としています。

※付属1. ターゲットにするスキル領域、付属2. 成功へのカギ。

カリキュラムの構成と形式

このように柔軟に利用していただけるCSTドラムテーブルのカリキュラムは以下の3つの分野を対象としています。

- ・ 音楽療法
- ・ 音楽教育
- ・ レクリエーション音楽

家庭やクラスで、好きなところから行っていただける10のレッスンプラン（アクティビティ）はこれらの分野をターゲットとしています。

またこのカリキュラムは、特に以下の7つのスキル領域をターゲットにして開発されました。（詳細は、付属1. ターゲットにするスキル領域参照）

- ・ コミュニケーション
- ・ 学力
- ・ 認知
- ・ 感覚運動
- ・ 社会性／情動
- ・ 演奏
- ・ レクリエーション

各レッスンは、様々な領域の発達を促すために、7つのスキル領域のうち3つくらいに特に対応しています。全てのレッスンはダウンロードし印刷してお使いいただけます。

全レッスンのデモンストレーションと説明は、ビデオでご覧いただけます。

カリキュラムは特定の参加者やグループのニーズに合わせて調整されることを想定しています。参加者はレッスンを通じて、スキル・能力・知識・鑑賞する力を高める機会を得られることでしょう。

実施する場所・施設

10のレッスンは、音楽室、一般の教室、施設、家庭内などで行うことができます。

- ・ 音楽室：すべてのグループ、特に活発な、または大きなグループに適しています。
- ・ 教室：小さめのグループ、動きのより少ないグループ、またスケジュールが重なって他の部屋が使えない時など。
- ・ 住居や入所施設：学校との効果的なコラボレーションの場として、またホームスクールの場合。

必要器材・用具

- ・ ほとんどのレッスンアクティビティで、40インチ、30インチ、の22インチのドラムテーブルとマレットが使われます。
- ・ レッスンによっては他のパーカッションが必要となることもあります。
(例：マラカス、シェイカー、ハンドドラムなど)
- ・ CDプレーヤー
- ・ ホワイトボードもしくは黒板
- ・ 紙とペン
- ・ iPad
- ・ ビジュアルキュー／メイヤー・ジョンソンシンボルス

アプローチと方法

ビデオとレッスンは、以下のアプローチを組み合わせ使用します：

- ・ 直接指導によるアプローチ
- ・ 系統だった指導法
- ・ 発見を促すアプローチ
- ・ インテグレーション（異なる要素を統合した指導法）
- ・ 受動的な参加の容認
- ・ ピア・チューター（仲間で教えあうこと）

これらの方法は、グループワーク、個人、ペア、グループプレイ、ステーション・ティーチングを通して、参加者の最大限の参加を促します。

レッスンの構造：

《ウォーミングアップ》 《メイン・アクティビティ》 《クールダウン、レビュー／応用》

レッスン形式：

レッスンはウォーミングアップとアクティビティの紹介で始まります。その後、目標のスキルが示され、アクティビティの各ステップについて明確な指示が与えられます。レッスンは、全体を通して連続的なアクティビティの実行となるよう組み立てます。レッスンは完了後に検証され、今後の可能性について話し合われます。

アセスメントと記録

ほとんどのアセスメントはレッスン中の観察、聞き取り、質問とフィードバックによって行われます。教師、両親、ケアワーカーは、成果を自分で記録していきます。

アセスメントの項目は以下のようなものです：

(参加者の)

- ・ アクティビティに参加する意欲
- ・ 特定のアクティビティに参加する準備
- ・ アクティビティを行う能力のレベル
- ・ アクティビティへの態度と興味
- ・ 個人、ペア、グループアクティビティに協力する意欲

アセスメントは以下のような方法で行います：

- ・ インストラクターの観察
- ・ インストラクターが作った課題

アセスメントは、ターゲットとするスキル領域の発達の高さをモニター・評価するためにインストラクターによって作られることもあります。これらのスキル領域は、個別指導計画（IEP）、個別移行計画（ITP）、個別サービス計画（ISP）のゴールに容易に組み入れることができるでしょう。

音楽療法士はアセスメントを行うことにより、様々な意図的かつ発展的な音楽経験をすることにより個人の現在の機能レベル（強みとニーズ）を理解することができます。音楽療法士は、このようなアセスメントを行って、音楽療法の目標との関連で、アクティビティ（もしくは介入）を修正することもあるでしょう。音楽療法のアセスメントでは、音楽療法の目標はもちろん、教師の目標をターゲットに置くこともできます。

クラス混合で教える

クラス混合はある意味人生のひとつの側面といえます。そのような環境で様々なレベルを扱うときは、必要に応じて柔軟に調整を行って下さい。

それぞれ異なるニーズを持つ参加者

各個人が特定のニーズを持ち、異なる発達段階にあることを認めることは重要です。また、身体的、知的、または情動面に困難があるため、カリキュラムによっては参加が難しい場合があることを認識しておく必要もあります。すべての参加者がレッスンの豊かさを確実に体験できるように、他のスタッフからのよいサポートを得るなど、あらゆる試みがなされなければなりません。[付属2. 成功へのカギ](#)にさらなる方法や提案が記されているのでご参考下さい。

関連エリアとの関係と統合

このレッスンと、適していると考えられる関連分野（例：IEP、ITP、ISP、ダンス、演劇、アート、年次コンサートなど）、学力の強化、コモンコアコンセプト（全米の統一的な学力基準）、その他の教育的な能力とアプローチは、出来る限り関連付けて統合するようにすべきです。

音楽療法士は、多くの場合、他の専門化と共同して、クライアント／生徒に対する療法的措置を調整し、一貫性をもって行います。

評価

レッスンの結果を評価する手段には以下のようなものがあります：

- ・ スーパーバイザーやインストラクターからのフィードバック
- ・ 参加者からのアクティビティレベル、楽しさ、スキルの発達についてのフィードバック
- ・ 経験ある上級マネージメントによる提案／助言
- ・ 指示や伝達について家族またはケアワーカーからのフィードバック

レッスン成功の評価の基準には以下のようなものがあります：

- ・ 参加者が見せた楽しさのレベル
- ・ すべてのクライアントの最大限の参加
- ・ 目標となるスキルの発達と理解
- ・ 社会性と音楽アクティビティのバランス
- ・ 能動的アクティビティと受動的アクティビティのバランス
- ・ 指導とレッスンを行うことへのインストラクターの満足感のレベル
- ・ グループアクティビティと個人アクティビティのバランス

コンフォートサウンドテクノロジーについて

コンフォートサウンドテクノロジーによって、聴覚過敏を含め、大多数の対象者に対し、リズムをベースにした手法を取り入れることが可能となりました。2年にわたる試験で、音に敏感な参加者はこの音をより好み、参加することに意欲的でした。試作実験段階で、繰り返しテーマとなったことがありました。音に敏感な人もそうでない人もドラムを叩きたがり、多くの人が叩かれているドラムの下に座りたいと希望しました。教師、療法士、そしてケアワーカーから、これには多くの自閉症を持つ生徒／クライアントを落ち着かせる作用があり、様々な身体的、知的障害を持つ圧倒的多数の対象者がよるこんだとの報告があったのです。

実施

役割と責任

インストラクターとしてのあなたの役割は、参加者としての立場であるとともに、ファシリテーター、観察者としてアクティビティと行動のお手本を示し、参加者を援助し彼らの反応を観察することです。インストラクターは手順の進捗を調整し、実施したことへのフィードバックを促し、それを受け入れ、スタッフや家族に発見したことを報告します。全てのインストラクターは、自分のクラスに対してこの手順を実施する責任があります。レッスンと教材がどのように教えられ受け止められたか、全体的にスタッフ／家族によって観察、レビューを行ってもらい、それを有意義に反映してレッスンを調整していくことが必要です。

教えることと学ぶこと

ほとんどのドラムテーブル・アクティビティを使った教育が教室や施設内で行われるでしょう。レッスンは、教師、ボランティア、インターンやケアワーカー、家族、そしてピア・チューターによって容易に行えるように考案されています。

セッションの中で

音楽セッションは10～45分を想定し、5分間を片付けと移動の時間として設けています。セッションの長さはニーズに応じて短縮、延長することができます。セッション内では、ゆっくりと静かな声で、口頭での指示はできる限りシンプルにはっきりと行うことを忘れないでください。これは参加者が間近にあるサウンドに集中することを助け、クライアントが非言語の合図に注意を向けそれに反応することを促進します。

役立つ注意点

- ・ まず自分が参加すること、よいモデルとなること、楽しむこと。
- ・ 必要に応じては、優しく手を取って導く指導補助をすること。

音楽療法士の免責条項：

音楽療法は資格を持つ専門家との療法的な関係性の中で、個人の目的を達成するために臨床的かつエビデンスに基づいた音楽を用いた治療的介入です。音楽療法士は、個人の身体的、情緒的、認知的、社会的なニーズに取り組めます。

本レッスンは、教育そしてレクリエーション音楽のためにデザインされました。レッスンにおける療法的な目的は認定音楽療法士によって取り扱われることができます。アクティビティ（介入または作業）の療法的促進への利用は音楽療法士によって進められます。

（米国において）音楽療法士は、認可された音楽療法のプログラムを持つ大学を卒業し全国共通の試験を受け、5年毎にCEUもしくは試験を通して資格を更新しています。認定音楽療法士（MT-BC）をお探しの場合は、AMTA（全米音楽療法協会：www.musictherapy.org）かCBMT（音楽療法士認定委員会：www.cbmt.org）のウェブサイトをご覧ください。

アクティビティのメリット

CSTドラムテーブルは、教育、療法、レクリエーション活動の発展のために無限の可能性を秘めた媒体です。ドラムテーブルは、個人、小さなグループと共に、そして他のドラムと一緒に使用することができます。アクティビティは大きなグループにも対応することが可能で、すべてのスキルレベル、年齢、能力に適応することができます。ドラムテーブルは恐れることなしに音楽を創造することを容易に可能にする手段です。参加者の満ち溢れた可能性に、音楽技術／社会性、適格性を高める機会を提供します。ドラムテーブルは非常にとっつきやすい楽器といえます。多くの人が指導やファシリテーションがいなくても叩き始めます。

指導者と生徒にどんなメリットがあるか

ドラムテーブルと10のアクティビティの利用は、多くの参加者の社会性、知力、そして身体の発達を促進します。

参加者にはメリットには以下のようなものがあります：

1. 身体的、社会的、情動面、創造性、知的な発達を促進する。
2. ポジティブな音楽創造と表現を伸ばす。
3. 様々な状況においての適切な動作範囲を習得することを促進する。
4. 音楽の様々な様相を理解し認識することを促進する。
5. 音楽に合わせて動く、すなわち表現と創造の手段として身体を使うことを受け入れさせ、促進する。
6. 音楽と創造的表現に対する肯定的な姿勢と喜びを促進する。
7. 規則正しいビートを感じて表現すること、道具を使って様々な方法で動くこと、歌声の探求、旋律を作り出すこと。

インストラクターのメリットには以下のようなものがあります：

1. 音楽的創造と表現についての意識を高める。
2. リズムと音楽の基本要素を学ぶ。
3. 音楽を作り聴くことを楽しむ。
4. どのように音楽を教室や家庭に取り入れるかを学ぶ。
5. 他のクラスのカリキュラムでも音楽を使うことができるアイデアとリソースを発展させることができる。
6. 音楽や動きをたくさん使って、生徒とのラポール（相互信頼関係）を築く媒介して役立てる。
7. クラス内や家庭での、IEP、ITP、ISPのゴールとの関係と統合。

アクティビティ

イントロダクション：見る、聴く、感じる

レッスン1：フレーズとフォーム

レッスン2：バックミュージックに合わせて演奏する

レッスン3：数を数えて演奏・交代する

レッスン4：リズムによって演奏・交代する

レッスン5：演奏しながら歌う

レッスン6：音のボリュームとテンポ

レッスン7：雨を降らせる

レッスン8：ジャングルでランブル

レッスン9：XOXO（シンボルを使う）

付属1. ターゲットにするスキル領域

以下のような、言語・非言語のさまざまな発達領域を伸ばすためにCSTドラムテーブルを使用いただけます。

コミュニケーションスキル

聴覚認知：聴覚的なサインと音を認知し反応する能力。

言語受容：言語を理解し指示に従う能力。

言語表現：考えや気持ちを言葉にして話す。

アイコンタクトの誘起：互いの顔を見ながら交流する機会を作る。

言語コミュニケーション：言葉、音、話すことでメッセージ・考え・感情を伝達する。

非言語コミュニケーション：ボディランゲージ（キネシクス＝動作学）・パラランゲージ（声調、表情など）・触れること・空間認識（プロクシミクス＝近接対人空間学）、アイコンタクト（視線学：動作学の一つで目に関係した非言語コミュニケーション学）

学 力

基礎的算数：数えること、足し算、引き算、パターンの認識とリピート。

音 楽：音量、テンポ、強弱の識別。ビート、リズム、メロディの識別。

そ の 他：シンボル、色、物の識別と認識。物語を語りことと言語技術。

認知スキル

シークエンス：課題における各ステップを理解し実行する。

記 憶：情報と指示を記憶し処理する。

注意持続時間：課題に集中し、適切な時間内、気を散らさず集中する。

感覚運動スキル

粗大運動：大きな筋肉群と体全体を使った動きをコントロールもしくは高める。

微細運動：手で掴む、指を動かすなど、小さな筋肉群をコントロールもしくは高める。

感覚統合：さまざまな感覚を使って自覚と認知の関連づけを強化する。

社会的／感情的スキル

感情表現：感情を認識し、理解し、適切に反応する。感情を表現する。

順番交代：特定の課題にあたり他者をよく見て聞く、順番待つなど、社会的に適切であると期待されることに忍耐強く従う。

チームワーク：我慢する、協力的である、リードする、従うことをして、他者と一緒に目標を達成する。

衝動のコントロール：自己コントロールと社会的に適切な行動を持続する。

自尊心：自信、自己認識、他者受容を伸ばす。

演奏／リクリエーションスキル

創造／即興：新しいスキルと技術を学びながら新しいアイデアを形作る。

リラクゼーション：不安や緊張から解き放たれた健やかな状態をつくる、もしくは保持する。

音楽鑑賞：創造的な手段として、またはリラクゼーションやエンターテイメントとして、いろいろなタイプの音楽を聴いて味わう。

演奏：人前でエンターテイメントとして、デモンストレーションとして、または教えるために新たに得たスキルを活用する。

付属2. 成功へのカギ

発達障害と自閉症を持つ生徒に実施するにあたって

環境を整える

理想的には、音楽グループが構造を保てるように一貫して使用できる専用のスペースを見つけるよう努めてください。できれば温度や明るさを調整でき、集中の妨げとなるようなものが少ない部屋がよいでしょう。ドアや窓、どのように音が響くか（音を反射させる部屋なのか、吸収する部屋なのか）といった室内の音環境にも意識を向け準備し、敏感であるようにしましょう。様々な環境要因がグループの成功には極めて重要となります。

- ・ 感覚的なニーズに配慮する：視覚、聴覚、触覚、臭覚
- ・ 座位もしくは立位
- ・ 雑音（光、道路、廊下、コンピューターなど）から離れて座る
- ・ 間仕切りパーテーションの使用
- ・ ドアや窓を背にして座る
- ・ 明るさの調整（デスクを照らす、窓に背を向けて座る）

生徒のことを知る

時間をかけて生徒のことを知っていきましょう。診断名、家族歴、人生の重要な変化、日々の生活の流れについて知ることができるよう働きかけます。生徒についての知識は、予期せぬ問題行動を制限すること、異なるアクティビティへの反応を高めること、よりよい経験を提供することを可能にします。

アクティビティのプラン

柔軟なレッスン・プラン・アクティビティと一体になった計画性の高いカリキュラム、一貫性のある包括的なテーマを使用することは効果的な授業と新しいスキルの獲得の基盤となります。レッスンプランを立てる時には、セッションの前後に毎回時間をとって目標や目的、スキルの領域について見直してください。レッスン中、多くの要因で集団力動や個人の参加レベルを劇的に異なる方向へ向かうことが起こりうるため、アクティビティを変更、適合できるよう準備しておきましょう。予備のアクティビティの準備をし、いかなる時にも何かできるように備えてください。セッション毎にレッスンを振り返り、最適な形に修正していきましょう。

ヒント：一貫性のあるフォーマット、タイムフレーム（時間枠）、繰り返し強化することで生徒が新しいスキルを学ぶことを支援できます。

期待

思い込みによる期待で生徒たちを差別しないようにしましょう。すべての生徒が成功することを可能性としてとらえ、生徒たちの学習能力を決して過小評価しないようにしてください。たとえ生徒が繰り返し参加を拒否したり、新しいスキルを学ぶことが難しそうであったりしても、肯定的であり続け、何度でも挑戦しましょう。物事は常に変化します。授業内容、生活環境、睡眠パターン、スケジュール、グループ、参加者、デモンストレーションの方法、またそれを行う人などが変わること、そして新しい歌さえも人々に活気を与えるきっかけとなり得えます。創造的になって、障害の内に隠れている潜在能力を解き放つ方法を探してください。

肯定感の強化

発達障害と自閉症を持つ人達の多くが、「自分はいまうまくできない」ことに常に直面しています。継続的で具体的な称賛と肯定感の強化は、各個人を勇気付け変容へと導き、新しい事柄を学び活動へ参加することへの自信を彼らに与えることができます。たとえ小さなことであっても、「マレットを渡すのも、アイコンタクトをとるのも上手だったね」というように、すべての成功を具体的に称賛しましょう。心からの偽りない一人一人に向けた称賛は、生徒に自信と継続的なやる気を与えることでしょう。

指示

指示は簡潔にゆっくりと明瞭に出しましょう。非言語での合図とiPadやメイヤー・ジョンソンシンボルズのようなコミュニケーションデバイスは可能な限り使用してください。認知、言語の技量は多段階の工程を難しくしてしまうことがあります。指示はできるだけ簡潔に少ない単語で行いましょう。次のステップへ行く前に各ステップでデモンストレーションと練習をしましょう。生徒の進歩に合わせてインストラクションの速度を決めます。レッスンを完璧にしなくてはならないという心配はせず、長く一貫した時間にわたって、社会的交流と小規模でこなすことが可能な事柄の中でのスキル習得に焦点を当ててください。

自分を信じて、さあ始めましょう！

下記のサイトで更に情報を掲載しています。

www.comfortsoundtechnology.com

www.remo.com